

6日目 7月18日

会 場: 県立浜山球場

第2試合	～3回戦～																			
T E A M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E		
三刀屋	0	2	1	1	0	1	0	0	0							5	8	0		
大 東	1	0	0	1	1	0	0	0	1							4	11	0		
(投手-捕手)																				
・ (三)	河角→飯塚 - 槇野																			
・ (大)	川上 - 稲田遥																			
(長 打)	(二塁打)						(三塁打)						(本塁打)							
・ (三)	本池、鈴木																			
・ (大)	川上、神庭												神庭							
(審判) [球審]	流田			〔一塁〕福岡			〔二塁〕仁科大			〔三塁〕鈴木										
(チーム成績)																				
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守	備	失	暴	ボ	逸	打	妨
(三)	37	8	5	2	0	0	1	3	7	0	5	1			0	2	1	0	0	0
(大)	41	11	4	2	0	1	9	3	2	0	10	0			0	0	0	0	0	0

「三刀屋、執拗なバント攻撃でリード下す！」

大会6日目浜山会場の第2試合は、第3シードの大東と三刀屋の近所対決となった。両校とも強力な上位打線に加え、絶対的なエースを擁しており接戦が予想された。三刀屋は河角、大東は川上の両エースが先発で試合は始まった。

1回裏、大東の3番神庭のライト線への本塁打で1点を先制する。しかし、直後の2回表、連打で無死1・2塁から6番鈴木の本塁打を投手と一塁手がお見合いし満塁になる。押し出し四球で同点に追いつくと、8番河角がスクイズを成功させ逆転する。三刀屋は3回表にも、1死1・3塁から5番飯塚がスクイズを決める。更に4回表にも2個の犠打で2死3塁とし、1番本池の三塁手強襲の適時2塁打でリードを3点に広げる。

大東も4回裏、連打で無死1・3塁とし5番林海のレフトへの適時打で1点を返すと、5回裏にも安打と四球で1死満塁とし5番林海の2打席連続の適時打で1点差に迫る。しかし、三刀屋が6回表に2塁打と犠打で1死3塁と好機を作り、エース河角に代え代打の常松がこの試合3つ目のスクイズを決め、決勝点を奪った。

7回以降は終始大東が攻める展開が続いた。7回裏には、連打と暴投で1死2・3塁と一打同点の好機を作ったが、4番藤原が空振り三振、5番林海が強烈なライナーを放つも相手遊撃手の好守に阻まれ得点出来なかった。8回もバントミスで好機を潰す。それでも9回裏に安打と四球などで1死1・3塁とし、4番藤原が内野ゴロを放つ間に1点返し1点差に迫ると、2死2塁としたが、最後は好調の5番林海が中堅手への飛球に倒れ試合終了となった。

三刀屋は走者を執拗に送りバントで次の塁に進めることと、無死又は1死3塁を作りスクイズで得点を奪う攻めが徹底されていた。下位打線が全く仕事が出来なかった大東に対し、三刀屋は安打は無くとも犠打の役割を果たした部分が結果的に試合を分けた。

